

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570907840		
法人名	医療法人恵愛会(ふきのとう)		
事業所名	グループホーム仁愛		
所在地	秋田県鹿角市花輪字六月田78-5		
自己評価作成日	平成30年8月30日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人母体が病院のため、医師、療養病棟、老人保健施設、居宅との連携も整備されており総合的なケアの推進に努めております。入居者様が安心して生活して頂けるように、本人の希望、意向を聞き実現出来る様職員が常に考えながら、傾聴に心がけています。高齢や状況に合わせ自立した日常生活を送ることが出来るよう支援しています。明るい雰囲気や穏やかな時が流れるホームを目指しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.akita-longlife.net/evaluation/">http://www.akita-longlife.net/evaluation/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	平成30年10月27日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

病院を母体とした複合施設の一画にあり、看護師資格を持つ管理者が医療、介護両面の経験を活かしてリーダーシップをとり、利用者の健康管理や目配りできる支援に取り組んでいます。運営推進会議、家族会を通じて地域及び家族との距離も近く、その繋がりがりも大切にしたい運営が行われています。クリスマス、敬老会は地域と家族会が率先して準備し、開催される行事となっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念は職員、入居者、来所者が常に目に入る所に掲示し、職員は毎日朝礼で確認しています。	毎日斉唱することで理念を意識した支援のあり方を確認し、実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や外出時声を掛けてもらっている。山菜やゴミ袋など届けてくれ話相手をしてもらっています。	地域との繋がりは深く、運営推進会議や防災訓練、ホームの行事等に積極的に参加してくれています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	行事にお手伝いして頂き、入居者、ご家族、職員とコミュニケーションを図りながら職員の介護方法を地域の方にも理解して頂ける機会を持っている。学生の体験学習の受入を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議を開催している。入居者の状況、行事など報告しそこで出した意見を反映している。	ホームの取り組みや災害に関する課題等に地域の参加者が積極的に関わり、意見を出していただいで敷地の整備に繋げたり、サービスの向上に活かされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者職員も出席して頂き、意見や助言を頂いている。	電話や運営推進会議で不明なことを相談し、協力関係を築くようになっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わない取り組みを、研修会等で職員全員が理解している。入居者に対する言葉のかけ方についても気をつけるようにしている。	ホームの玄関前を業者の車が頻回に通行するため、玄関、渡り廊下の職員の目が届き難い箇所には事故防止のために施錠しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	普段から身体拘束を行わない研修時に、虐待の防止法についても一緒に研修している。馴れ合い状態での無理な言葉などの静止にならないよう、職員間で話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は制度を利用している入居者はおりませんが、相談あれば対応致します。職員の勉強は行なっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に重要説明事項、契約書を提示し十分に説明し、理解納得して頂いた上で契約して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の要望等は耳を傾け、会話態度から汲み取っている。年2回の家族主催の行事の時、家族会を行いご家族からの意見も確認出来る機会を作っている。	利用者の要望にはその都度対応を検討しています。家族会で意見を収集している他、個別に話を聞くことが多く、運営に反映できるように取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の運営会議に職員の意見、希望を会議に出している。個人面談の機会を設け、率直な意見を確認出来るように努めている。	経年による設備面での不具合や必要な備品の検討等、職員の意見や要望を法人本部に伝える仕組みがあり、反映させています、	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人としての人事考課制度年2回あり、昇格や賞与アップもあります。年2回の健康診断を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用職員、異動職員は計画的に研修に参加する機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの研修会にケアマネが参加し意見交換行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族の情報、希望、ご本人に安心して生活して頂けるように信頼関係の構築に努めている。プランに反映している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族としての困りごとをお聞きし、入居になってもいつでも家族が来所しても良い事、外出、外泊も大丈夫な事、をお伝えしている。良好な関係作りを心がけている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の行えることを、本人やご家族から教えて頂きながら、日常的に自然に行える環境を作るように努めている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の来所時様子を伝え、毎月1回のご家族への便り、ご家族が参加され入居者と一緒に楽しむ事が出来る行事を企画し、日常の様子を伝えている。その際ご家族の思いを受容し協力関係を築くよう努力している。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来るだけ本人のそれまでの生活を継続することが出来るよう支援しています。馴染みの美容室の継続、友人が来所してゆっくり過ごして頂ける様に努めている。その方の生活習慣を尊重して支援しています。	それぞれの生活習慣を大切にして継続支援に取り組んでいます。家族にも協力していただき、協力が得られない時には職員が利用者の思いに応えられるように取り組んでいます。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の入居者の表情や言動を観察し、入居者同士の関係を把握するよう努めている。日常生活に職員が間に入り会話などの橋渡しをして、馴染みの関係支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族に合った時は近況を聞いたり、できるアドバイスなど行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報、日々のコミュニケーションから希望や思いをくみとり、把握に努め出来る限り対応している。職員全員が意見交換出来る場を作っている。	利用者との会話や日頃の行動から気付いたことを記録して職員間で共有し、毎日の申し送りを通じて情報を収集しています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の表情や言動を観察し、入居者同士の関係を把握するよう努めている。日常生活に職員が間に入り会話などの橋渡しをして、馴染みの関係支援に努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人、ご家族から教えて頂くと共に入居者1人ひとりのアセスメントを行っている。本人の負担にならない力を常に確認しながら出来る事を行っていただき自立への支援を行っています。職員全員で日々の入居者の観察を行っている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族必要に応じて医師からの指示、要望を収集し毎日の申し送りやユニットごとの会議で情報交換を行っている。ケアマネを中心として介護計画の見直しや作成を行い実行に努めている。	カンファレンスで意見交換し、介護計画を作成しています。家族への確認も行っています。	介護計画に沿った記録をとり、モニタリングに活用しやすい方法の検討を期待します。
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に関しては計画を中心に、計画に反映する事が出来るよう職員それぞれ具体的な報告、記録をもとに検討し計画に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民、ボランティア、消防、鹿角市を入れ2ヶ月に1回運営推進会議を行い、その都度情報を提供することで協力を得られるように働きかけている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後のかかりつけ医を本人ご家族と相談している。又協力病院への定期受診のための付添いを行っている。	母体病院が隣接していることからかかりつけ医を変更した方もおりますが、希望に沿った支援が行われています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤しており、入居者の日々の健康管理を行うと共に、職員間の情報交換を密に行い状態に応じた支援を行っている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が決まった際は、職員が生活状況や身体、精神状態を報告している。ご家族の許可を得時々病院へ面会に行っている。病院より情報も入る。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にご家族に確認し、病院受診時に状態の確認を行い、必要に合わせて医師の指示に従ってます。医師よりご家族への説明が必ずあり、管理者も立ち合い話し合いに致します。	入居時にホームの指針を説明して理解を求めています。重度化した場合には可能な限りホームで生活できるよう支援しています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個々に健康マニュアルがあり、日々の生活の中で目配り、気配りをし小さな変化も見逃さないようにしている。母体が病院なので24時間対応してくれる。急変時の対応は看護師、職員が行い医療機関へお願いしています。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の災害対策を計画し行なっています。水害対策は今年度中に行なう予定です。職員、地域応援連絡網の整備もされている。	ホーム周辺の避難経路が舗装整備されました。食糧、飲料水が備蓄されており、訓練には近隣住民が協力して一緒に行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりを尊重し言葉かけや対応を行うよう心がけている。個人情報に関してはプライバシー確保に努めている。個人情報利用同意にもとづいて説明し、同意をいただいている。	利用者毎の性格や状態に合わせて接することができるよう気を付けています。対応の仕方が利用者によって異なることを職員が理解できるよう、注意喚起しながら取り組んでいます。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人ひとりの心身の状態の把握に努め、入居者それぞれにあった説明や選択の場を提供し、納得や自己決定を行いながら生活して頂けるように支援にしている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の過ごし方はあるものの、本人希望にそった馴染みのある生活を送っていただけるよう支援しています。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人やご家族と相談しながら身体状況に合わせて出張床屋など利用している。本人と一緒に買い物に行き、洋服など選んで頂いている。季節感のある支援を行なっています。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の出来る事を一緒にいき、盛り付けなどはお願いしている。お茶碗拭き、テーブル拭きは進んで行っている。入居者と職員と一緒に座り、楽しみながら食事して頂けるように心がけている。	プランターで野菜を育てたり、お菓子づくり等のできることを一緒にいき、行事食や外食を取り入れて食べる楽しみに繋げています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が献立を作成し管理栄養士からカロリー計算をして頂き、個人の摂取量は記録に残している。献立検討会議も行っている。嗜好調査も行ない、希望にこたえる様に努力している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人ひとりの状況に応じた口腔ケアや声かけを行っている。夜は全員のケアを支援し確認を行っている。異変時は歯科受診に付添っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄介助が必要な方には、表などを作成し個々の排泄状態の把握を行い、状態に合わせた誘導を行い、トイレで排泄して頂いている。自尊心を損なうことがないように配慮し清潔保持に努めている。	退院後の利用者もリハビリパンツを使用しているものの失禁することもなく過ごしており、その人毎のパターンを把握し、サインを見逃さずトイレでの排泄を基本とした支援が行われています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給料、食事、で出来るだけ自然便があるように心がけている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合や曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回入浴予定とし、その時の状態に応じて支援行っている。	体調や状況によってシャワーを併用し、週2回の入浴を目途に支援しています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠時間の把握を行うと共に、慣れた寝具やパジャマを使用する事で安眠していただけるように支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の服用している薬がわかる様に個人ファイルに薬の説明書が入っている。内服の紛失、誤薬がないように努めている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中から得意な事、出来そうなことを確認し、状態に合わせた役割をして一緒に作業を行って頂いている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事などで外出している。外出は出来るだけご家族の協力を得ている。協力が得られない方には職員が付添って買い物、お墓参りに行っています。	ドライブや外食を兼ねた外出を定期的実施し、戸外に出て気分転換できる支援が行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理出来る方は自分で管理し、洋服、おやつなど自由に行っています。金銭管理はご家族に管理して頂いています。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お手紙やハガキが届くと、返事が出せるように声掛けやポストに出す支援をしています。電話は自由に行っています。取次ぎやゆっくり話ができるように、椅子など準備しています。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量や光の入り方などに入居者の意見を取り入れられている。季節感のある花など職員が持って来てくれ、入居者に飾って頂いている。	花瓶に挿した花が随所にさりげなく飾られており、季節感を取り入れた空間づくりに職員の気遣いを感じられます。	以前活用していた中庭の設備が使えなくなっており、利用者の憩いの場として再び使用できるよう整備の実現を期待します。
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂では入居者同士の相性も考慮し、安心して過ごして頂けるように工夫している。1人で過ごせるように場所の工夫もしています。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅で使用していた物など、自由に持って来て設置出来るようにしています。居心地の良い空間作りに取り組んでいます。	以前入居していた方が描いた絵が各居室に飾られ、落ち着いた雰囲気となっています。家族が環境づくりに協力している方もいて、安心して過ごせる配慮がみられます。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援を図るため入居者の「出来る事」出来そうなこと事には、口や手を出さず見守ったりさりげなく一緒に行くようにしている。		